

胆振の概況

2023



目次

● いぶりのあらしし……………2	● いぶりの消防・防災……………19
● いぶりの農業……………6	● 胆振東部地震からの復旧・復興…20
● いぶりの森づくり……………9	● いぶりの社会福祉……………21
● いぶりの水産業……………10	● いぶりの保健医療……………23
● いぶりの工業……………11	● いぶりの自然環境……………25
● いぶりのエネルギー産業……13	● いぶりの環境衛生……………26
● いぶりの観光……………14	● いぶりの交通安全……………27
● いぶりの商業……………16	● いぶりの文化・教育……………28
● いぶりの交通・運輸……………17	● いぶりの社会資本……………31
	● いぶりの11市町紹介……………33

胆振の あゆみ

1869年(明治2年)	開拓使を設置 蝦夷地を北海道と改称 11国86郡を設置 胆振国(虻田、有珠、室蘭、幌別、白老、勇払、千歳の7郡)
1871年(明治4年)	札幌開拓使庁を設置
1872年(明治5年)	札幌開拓使庁を札幌本庁と改称
1874年(明治7年)	樽前山噴火
1879年(明治12年)	室蘭、苫小牧に郡役所を設置
1882年(明治15年)	開拓使を廃止 函館、札幌、根室の3県を設置 札幌県の管轄となる
1886年(明治19年)	3県1局を廃止 北海道庁を設置
1897年(明治30年)	郡役所を廃止 室蘭支庁を設置(室蘭、有珠、虻田、幌別、勇払、白老の6郡を管轄)
1907年(明治40年)	輪西村に製鉄所(現・新日鐵室蘭の前身)の建設開始
1909年(明治42年)	樽前山噴火(溶岩ドームできる)
1910年(明治43年)	王子製紙苫小牧工場操業開始 有珠山噴火(後に四十三山となる)
1918年(大正7年)	室蘭区を設置
1920年(大正9年)	洞爺村が虻田村から分村
1922年(大正11年)	室蘭支庁を胆振支庁と改称し現在に至る 市制施行により室蘭区は室蘭市になる
1923年(大正12年)	戸長役場全廃 町村制施行(6市 99一級町村 155二級町村) 胆振支庁(1市 1町 12村) (※①:一級町村 ②:二級町村)
	〔室蘭市 苫小牧町① 幌別村② 伊達村① 弁辺村② 虻田村② 洞爺村② 徳舜管村②〕 〔壮瞥村② 白老村② 安平村① 厚真村① 鷗川村② 似湾村②〕
1938年(昭和13年)	虻田町 町制施行
1943年(昭和18年)	有珠山の地殻変動活発化(後に昭和祈山となる)
1947年(昭和22年)	地方自治法施行 北海道庁を廃止 北海道を設置 豊浦町町制施行
1948年(昭和23年)	苫小牧市 市制施行
1949年(昭和24年)	支笏洞爺国立公園指定
1950年(昭和25年)	大滝村が徳舜管村から改称
1953年(昭和28年)	追分町 町制施行 鷗川町 町制施行
1954年(昭和29年)	白老町 町制施行
1955年(昭和30年)	北海道胆振合同庁舎別館竣工(旧庁舎・室蘭市幸町)
1957年(昭和32年)	早来町 町制施行
1959年(昭和34年)	北海道胆振合同庁舎本館竣工(旧庁舎・室蘭市幸町)
1960年(昭和35年)	厚真町 町制施行
1962年(昭和37年)	壮瞥町 町制施行 穂別町 町制施行
1970年(昭和45年)	登別市 市制施行
1971年(昭和46年)	北海道開発審議会が苫小牧東部開発基本計画を了承
1972年(昭和47年)	伊達市 市制施行
1977年(昭和52年)	有珠山噴火
1993年(平成5年)	千歳市、苫小牧市、恵庭市、白老町、早来町、追分町、厚真町の7市町が地方拠点都市指定
1998年(平成10年)	白鳥大橋開通
2000年(平成12年)	有珠山噴火
2006年(平成18年)	大滝村が伊達市に編入合併。虻田町と洞爺村が合併し「洞爺湖町」に、 早来町と追分町が合併し「安平町」に、鷗川町と穂別町が合併し「むかわ町」となる
2007年(平成19年)	第58回全国植樹祭開催(苫小牧市)
2008年(平成20年)	北海道洞爺湖サミット開催
2009年(平成21年)	北海道胆振支庁が「むろらん広域センタービル」へ移転(新庁舎・室蘭市海岸町)
2010年(平成22年)	北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条例施行により、胆振支庁から胆振総合振興局となる
	西胆振6市町が室蘭市を中心市とする「西いぶり定住自立圏」を形成
	東胆振5市町が苫小牧市を中心市とする「東胆振定住自立圏」を形成
2016年(平成27年)	9月6日午前3時7分 北海道胆振東部地震発生(最大震度:7 厚真町)
2018年(平成30年)	ウポポイ(民族共生象徴空間)開業
2020年(令和2年)	

胆振(イブリ)という名の由来

「日本書紀」によれば齊明天皇の代、阿部臣が北征した時に、胆振鉏(いぶりさへ)の蝦夷を宴会に招待したという。古く新井白石が胆振鉏とは北海道の勇払(いぶつ)地域のことでないかと物の本に書いている。明治初年、松浦武四郎が北海道の国郡名について「噴火湾の山越内から沙流境迄を一国にしたい。その中で、勇払は大場所であり又多いから、中心地としたらよい。」とし、その国名としては「日本書紀の胆振に気が付いたので、胆振でいかがでしょうか。」と北海道開拓使長官に建議した。それで胆振という国名ができた。(北海道大百科事典から)